



# 近畿と

# 紀淡海峡

# 四国をつなぐ

海を越えた交流で出会う笑顔



# はじめに…

## 新たな国土像の実現に貢献する 近畿と四国の交流

近畿と四国は、古くから海を越えて人やもの、情報の交流を進めてきました。時を経ても「海の道」はずっと続いていて、近畿と四国は今も深くつながっています。

### アクセス向上で ますます近くなる近畿と四国

紀淡海峡交流地域は、大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・徳島県・香川県・高知県で構成され、オランダ1国の総人口を上回る約2,000万人が暮らしています。近畿と四国は、明石海峡大橋でつながり、四国内のエクスハイウェイの整備が進んでいることから、近畿と四国の主要都市は高速バス31路線で結ばれるなど、結びつきはますます強まっています。

近畿と四国を結ぶ  
主要高速バス路線



### 文化のつながり

近畿と四国の文化面でのつながりの代表は、四国八十八ヶ所めぐりです。四国八十八ヶ所は発心、修行、菩提、涅槃と四国4県をめぐり、船で海を越えて和歌山県の高野山にお参りして、結願成就となります。高速バスなど交通手段は変化しても、徳島の霊場でお遍路さんをもてなす和歌山の人々（「紀州接待講」）が見られるなど、両地域は深い関わりを持ち続けています。



## 目次

### 命の道と広域での相互支援

近い将来に近畿と四国では東南海・南海地震の発生が心配されています。各府県では、住民のみなさんの命を救う道や防災対策の取り組みを進めていますが、加えて広域での防災応援協定も締結され、災害時の相互協力体制が整備されています。また、民間でも、和歌山放送（和歌山市）と四国放送（徳島市）が災害時代替放送協定を締結するなど、広域での共助の取り組みが進められています。

### 近畿と四国の交流が 広域ブロックの発展につながる

近畿と四国の間では、産業、観光、国土管理、環境保全など、さまざまな分野で古くからの歴史的・文化的つながりを現在に活かしています。

近畿と四国は、国土形成計画では2つの広域ブロックに分けられていますが、国土形成計画がめざす多様な広域ブロックの自立的発展のためには、近畿圏と四国圏のそれぞれが自立的な発展のための取り組みを進めるだけでなく、古くから続く「海の道」を活かして相互間の交流・連携を進めていくことが大切です。

この冊子では、人と人が出会い、それぞれの地域の魅力にふれ、お互いに元気なエネルギーを生み出してきた近畿と四国の交流事例をご紹介します。

### 大阪と高知、香川の交流 …… 1

お母さんが植えた木をぼくが間伐したよ！自然体験、スポーツ、物産市は市民が主役

### 兵庫と徳島の交流 …… 3

県域を越えて、観光魅力のPR「とくとく周遊ガイド」で巡ってお得！

### 奈良と高知の交流 …… 5

明治維新のさきがけ天誅組をご縁に市町村を越えてさまざまな活動に発展

### 和歌山と四国の交流 …… 7

元祖！お遍路さんを運ぶ海の道 四国と関西の物流を支える海のPA

### 関西と徳島の交流 …… 9

都市との交流で地域力が試されるお年寄りの笑顔が何よりの成果

### 兵庫と香川の交流 …… 11

親子2代でゴールを目指せ！ 近くなったね！サッカー大好き、海を渡る



# 大阪と高知、

大阪府枚方市

高知県四万十市 (旧中村市)

お母さんが植えた木をぼくが間伐したよ！  
自然体験、スポーツ、物産市は市民が主役

## 子どもたちに豊かな 自然体験を

大阪のベッドタウン・枚方市は人口40万人。この町から高知県四万十市(旧中村市)に遊びに訪れた住民が自然の美しさに感動し、ぜひ枚方の子どもたちにも豊かな自然体験を、と住民主体の交流がはじまりました。昭和49年には2市の間で友好都市提携が結ばれています。

## 高校野球の応援に 駆けつける市民

住民主体の交流パワーを見せつけたのは、旧中村市の中村高校が春の選抜高校野球大会に出場した昭和51年。高知県代表を応援する甲子園のスタンドは、3,300人もの枚方市民で埋め尽くされました。



## 親子2代で森づくり

2つのまちの住民交流は、子どもたちによる森づくりによってますます本格化していきます。昭和56年、両市でつくる「枚方市・中村市子ども会親善交流」によって旧中村市に「青少年友好の森」がにつくられました。枚方市から訪れた中学生が植樹を行い、旧中村市の協力で下草刈り、蔓切りなどの管理を行ってきました。平成15年には「中村市ふれあい交流ツアー」で枚方市の小学生が友好の森を訪れ、間伐作業を行いました。母親が植樹した木を子どもが間伐するといった世代を超えた地域間交流も育まれています。



# 香川の交流

香川県旧塩江町

※旧塩江町との交流は平成17年高松市として合併後、廃止。住民主体で高松市との地域間交流へと移行



こんな道を通して交流してます

## 交歓スポーツ大会

枚方市 ▶ (バス) ▶ 大阪空港 ▶ (飛行機) ▶ 高知空港 ▶ 高知道・須崎道路 ▶ 四万十市 (旧中村市)

## ちびっこ体験ツアー

【往路】旧塩江町 ▶ (バス) ▶ 高松港 ▶ (フェリー) ▶ 大阪港 ▶ (バス) ▶ 枚方市

【復路】枚方市 ▶ (バス) ▶ 京都 ▶ (新幹線) ▶ 岡山 ▶ (JR) 高松 ▶ 旧塩江町



Osaka HIRAKATA 2

## あの笑顔に会いたくて7時間

両市では、体育協会を中心としたスポーツ交流も盛んです。3年に1度の「交歓スポーツ大会」では、バレーボール、軟式野球、ソフトボールなどのチームが行き交い、交流を深めています。枚方市を早朝出発して飛行機で大阪空港から高知空港に向かい、バスで移動。トータル6～7時間をかけての大移動にも関わらず、到着後は、真剣勝負のスポーツ大会。そんなパワフルな市民交流を支えているのは、スポーツを通じて生じた絆。海を越え、時間をかけてでも「あの笑顔に会いたい」が大きな原動力になっています。

## 子どもたちの船旅、鉄道、車の旅

香川県旧塩江町とは、子どもが主役の交流活動が行われていました。昭和62年に友好都市提携を結び、都会と農村の子どもたちの相互に訪問がはじまりました。枚方市の子どもたちは自然の中での暮らしや遊びを満喫し、塩江の子どもたちは都会の暮らしを体験。初日は緊張の面持ちの子どもたちも、すぐに打ち解けます。

## 物産市

枚方市では、毎年全国の友好都市が一堂に集い物産市を開催しています。四万十川や旧塩江町からも、特産品が山積みされたブースを出店。都会では手に入りにくい新鮮な食材が手にはいると、市民からも好評です。

# 兵庫と徳島

兵庫県淡路島

徳島県

県域を越えて、観光魅力のPR  
「とくとく周遊ガイド」で巡ってお得!

## 兵庫県淡路島と徳島県

兵庫県淡路島は、江戸時代には現在の徳島県・阿波藩が治めていたところ。鳴門海峡でつながる両地域は、ワカメや鯛などの共通した特産品のほか、人形浄瑠璃や渦潮観潮船の就航など歴史・文化的にも深いつながりを持っています。海峡を越えて観光交流を行おうという話は、大鳴門橋が完成した頃から続いてきたものです。それを実現させたのが、兵庫県淡路県民局や淡路島観光連盟、徳島県で進めている「とくとく周遊ガイド」の作成です。

## 協賛施設もゾクゾク増加

淡路島と徳島県下の観光施設を特典付きや割引価格で巡ることができる広域観光マップの発行部数は32,000部。徳島県にとっては、明石海峡大橋・大鳴門橋を使った関西圏からの観光客増加を見込み、淡路島にとっては徳島県と連携することで宿泊客の増加が見込まれるという、両地域双方にとってメリットの高い交流連携事業です。事務局は、兵庫県淡路県民局と徳島県との1年交代制。最近では体験型観光の人気の高いことから、さまざま



な観光施設・体験型施設への営業を行い、協賛施設を増やすなどにも互いに切磋琢磨しています。

# の交流



こんな道で観光交流を支えています

## 徳島県下へ

関西各地域 ▶ (明石海峡大橋) ▶  
淡路島 ▶ (大鳴門橋) ▶ 徳島県

## 淡路島へ

四国各地域 ▶ (高速道路) ▶ 徳島  
県 ▶ (大鳴門橋) ▶ 淡路島



## 震災時には、いち早く手伝いに

歴史的な背景をもとに、人形浄瑠璃の相互公演など住民同士のつながりも深い淡路島と徳島県。阪神・淡路大震災の時には、徳島県側からいち早く支援のボランティアが淡路島に駆けつけ、復興に尽力してくれたという話も聞きます。淡路島南部の住民にとって、大きな買い物や大病を患ったときは神戸市よりも徳島市に出かけることも多いという土地柄。観光のみならず、住民同士の行き来は日頃から盛んに行われています。

## 近接性と相違を活かす

例えば、淡路島内で徳島県の秘湯を紹介、徳島県下でも淡路島の漁業体験や民泊を紹介するという県域を越えた観光PRは、観光に訪れた人にとっては利便性の高いものとなっています。共通する資源を活かしながら、それぞれの「ならではの」を紹介し、広域的に元気な圏域づくりを進めている交流活動です。

# 奈良と高知

奈良県東吉野村・五條市

高知県津野町（旧東津野村）

## 明治維新のさきがけ天誅組をご縁に 市町村を越えてさまざまな活動に発展

### 天誅組でつながる地域

奈良県東吉野村は人口3,000人弱、三重県境に接する自然豊かな山村です。ここは、明治維新の魁（さきがけ）として散った天誅組志士の終焉の地。村内には、天誅組志士を祀る碑が建立され、住民でつくる顕彰会によって慰霊と顕彰が行われています。

一方の高知県橋原町、津野町（旧東津野村）は、吉村虎太郎・坂本龍馬などに代表される脱藩の道として知られ、土佐は新しい時代をめざした志士たちの出身地です。天誅組三総裁の一人吉村虎太郎の出身地と終焉の地という歴史的なつながりを活かし、互いの教育文化・産業経済の振興発展をはかろうと、昭和51年には橋原町と友好町村盟約を、昭和56年には東津野村（現津野町）と姉妹村の盟約が結ばれ、様々な交流が行われています。



### 町村合併でも 消えないご縁

天誅組を通じた交流事業は、イベント開催時の協力、ホームページのリンク、行政や議会の交流など多岐にわたります。東吉野村と東津野村の間では、中学生を中心とした交流が続けられてきました。特に、東津野中学校では、平成17年の町村合併後も修学旅行で毎年東吉野村を訪れて吉村虎太郎など天誅組





# の交流

・ 橿原町



こんな道が交流のベースになってます

**天誅組  
吉村虎太郎の道**

高知県津野町(旧東津野村)【誕生の地】▶ 橿原町【出身地】▶ 京都  
▶ 堺▶ 奈良県五條市▶ 高取町▶ 十津川村▶ 東吉野村【終焉の地】

志士の墓参をし、郷土の歴史・文化を学習しています。

平成19年4月、東吉野村は、東津野村と葉山村との合併によって誕生した津野町と改めて姉妹町村の盟約を締結しました。

## 歴史を連携して伝えていく

平成17年、東吉野村では「天誅組終焉の地展」を開催し、平成18年に津野町で開催された生誕170年記念「吉村虎太郎展」では、東吉野村が天誅組関連資料を提供するなど、共有する幕末・明治維新に関する歴史の伝承や情報提供に連携して取り組んでいます。

## 連携ネットワークと新たな活動

最近では、東吉野村をはじめ五條市、高取町、十津川村など天誅組関係自治体も参加し、天誅組志士の子孫や郷土史研究者、ボランティアガイドのメンバーで『『維新の魁・天誅組』保存伝承・顕彰推進協議会』が設立され、多様な主体による連携のもとでのPR活動も始められました。協議会では、天誅組ゆかりの地を巡るツアーを実施したり、天誅組から日本再生を考えるシンポジウムの開催、NHK「その時、歴史が動いた」へのアピールなどさまざまな活動へと広がりを見せています。

# 和歌山と四

和歌山県和歌山港

徳島県徳島港

## 元祖!お遍路さんを運ぶ海の道 四国と関西の物流を支える海のPA

### お遍路さんを運ぶ南海フェリー

和歌山県の和歌山港と徳島県の徳島港を結ぶ南海フェリー。このルートは古くから、高野山と四国八十八ヶ所をつなぐ信仰の道です。平成10年に明石海峡大橋が開通し、利用数に影響を受けたものの、いにしえのお遍路さんの道を辿りたいという本格指向の旅客や、四国と関西を結ぶ物流には欠かせない海の道となっています。



### 海の道は動くパーキングエリア!?

物流の視点で見ると、四国からは農作物や鮮魚、雑貨、鋼材などが関西圏に運ばれています。例えば、愛媛県八幡浜漁港でトラックに積み込まれた活魚が翌朝、大阪中央卸売市場に並べられているのも海の道のおかげ。陸路の整備が進む中、物流にとって海の道の利用は、事故を減少させ、ドライバーが休息をとることができるというメリットがあります。海の道は、まさに「動くパーキングエリア」だと言えます。



# 国

# の交流



こんな道を通ります

## 南海フェリー

和歌山県和歌山港(和歌山市)  
▶ 徳島県徳島港(徳島市)

## 海の道と車の道のドッキング

陸路と競合関係にあると見られがちな海の道ですが、実は陸路の整備はフェリー利用者の商圏にも大きな影響を及ぼしています。以前は、四国側のメイン利用者は徳島県でしたが、四国の高速道路網・エクスハイウェイの整備に伴い、現在では愛媛県大洲市あたりまでが利用域となっています。一方の関西側は、大阪府堺市や泉大津市など大阪南部と紀伊半島が利用域の中心となっています。

## イベントで海の道を再び元気に

人々の価値観が、スピードや経済効率から、癒し・心の豊かさなどヘシフトとしてきている現在、海は「非日常体験」を満喫できる場だといえます。歴史文化を背景に四国と関西をつないできた海の道は、近年、様々な催しが展開される場として、再び注目を集めています。海から眺める花火大会、元旦の初日の出などは特に人気が高く、四国と関西の人々を乗せた交流の場となっています。

# 関西と徳島

上勝町

都市との交流で地域力が試される  
お年寄りの笑顔が何よりの成果

飛行機

バス

## ツマモノで一躍全国区に

徳島県上勝町は、勝浦川の上流にある山間のまち。人口に占める65歳以上の割合は約47%に及びます。ここが全国的に知られるようになったのは、「ツマモノ」という、料亭などで料理に彩りを添える葉っぱを出荷するようになったから。これは、JAの方のアイデア、地域を元気にしたいという真摯な思い、そして身体を張った販路開拓の成果でもあります。この取り組みの中心となっているのが「株式会社いろどり」です。

## 一番の交流資源は、 元気なお年寄り

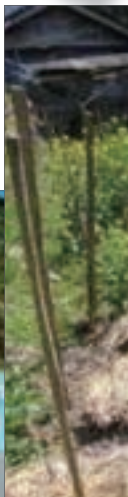
上勝町では、まちの各所で笑顔あふれるお年寄りがいきいきと生産・出荷に取り組んでいます。「いろどり」を支える生産者の多くは、上勝町のお年寄りです。全国から注目を浴びた理由も、仕事を通じて高齢者の方々を元気づけ、地域力を高めた点。過疎化・高齢化・限界集落化などに悩む全国各地から、「いろどり」のノウハウを学ぼうと多くの視察が訪れるようになりました。

こんな道を通して交流しています

### ワーキングホリデー・緑の協力隊

【関西】大阪府・奈良県・京都府▶  
(明石海峡大橋)▶上勝町

【首都圏・東北】  
各地空港▶徳島空港▶上勝町





# の交流



## ワーキングホリデーから移住へ

マスコミの報道等により、上勝町の取り組みに関心を持って都会から訪れる人も増えています。大阪・奈良・京都など関西圏や首都圏、東北などから上勝町に移り住んだ人は10年間で100人以上。今では、町内各地区で地域活動の中核を担う人材として活躍しています。いざい以外にも、「緑の協力隊」や町が取り組むワーキングホリデーに参加し、このまちに移住を決めた若者も多く、町の広報やホームページ制作など、若者ならではの技術とアイデアを活かした分野で活躍しています。

## 交流で試される“地域力”

交流によってもたらされる新たな価値観は、上勝町に住む人々に「気づき」を生みださせると言います。自分たちの住む地域がどうあるべきか、自分は何ができるかを考えるために、都市との交流は大きな力を持っているといます。交流で他の地域に目を向ける前に、まずは地域の中でじっくりと話を進め、理解し、ともに行動してくれる住民を増やして地域力を高めること、それが都市との交流を進める大きなポイントとなっています。



# 兵庫と香川

兵庫県神戸市  
多井畑フットボールクラブ

さぬき市  
長尾ジュニアサッカークラブ

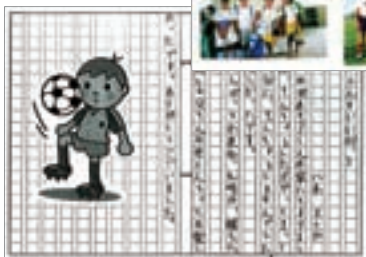
## 親子2代でゴールを目指せ! 近くなったね!サッカー大好き、海を渡る

### 親子2代のサッカー交流

香川県さぬき市にある少年サッカーチーム「長尾ジュニアサッカークラブ」。このチームが長年サッカー交流を行っているのが兵庫県神戸市の「多井畑フットボールクラブ」です。サッカー協会の理事を通じて知り合ったこの2チームの交流は約30年間にもわたります。小学校時代にチームに入っていたメンバーは親となり、親子2代にわたってメンバーという人も多く、家族ぐるみで絆を育む交流が続けられています。

### それぞれのもてなしの心

子どもたちは、訪れた先ではそれぞれのチームメンバーの家族とホームステイをして過ごします。さぬき市から神戸を訪れた子どもの中には、「はじめてマンションに泊まったよ!」という感想も。メンバーの親子手づくりのミニ運動会やバーベキューなどで歓待すると、神戸からの子どもたちを受け入れる長尾クラブも親が中心となって、子どもたちのためにカブトムシを捕りに行ったり、さぬきうどんや地元伝わる竹細工の教室の準備をしたり。お互いに



無理なく、おもてなしの心で交流することで、長尾・多井畑はメンバーそれぞれの第二のふるさととなっています。

# の交流



こんな道を通して交流しています

## 以前のルート

長尾 ▶ (バス) ▶ 高松港 ▶ (フェリー・4時間) ▶ 神戸港 ▶ 多井畑

## 現在のルート

長尾 ▶ (バス・高松道・明石海峡大橋) ▶ 多井畑



## 道の整備で1泊2日に

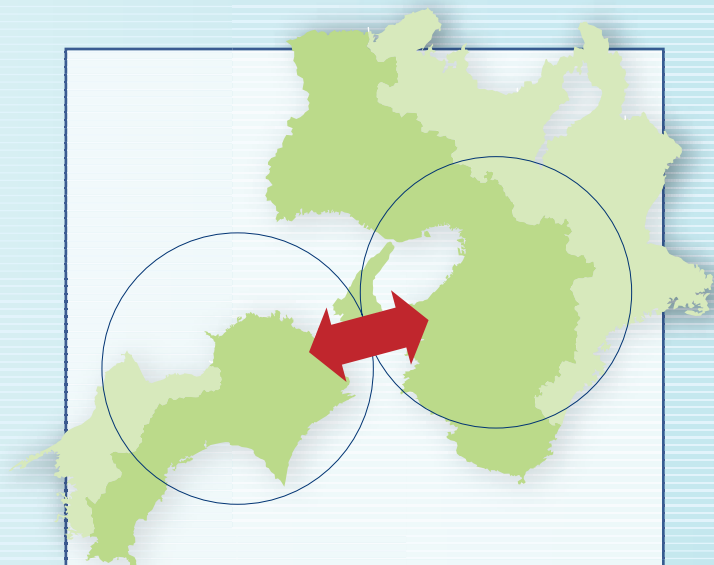
交流が始まった頃、移動には船を利用していました。高松港からフェリーに乗って神戸港へ向かう海の旅は、約4時間。大好きなサッカーの交流試合のためとはいえ、子どもたちには長い道のりです。この時間を使って、子どもたちは劇や歌など、懇親会の出し物の練習をして過ごしていたといいます。現在は、高松道・明石海峡大橋を通じてさぬき市と多井畑はとても近くなりました。移動時間は約2時間。朝6時に長尾を出発し、8時に

は多井畑着、9時には親善試合を開催するといったスケジュールが可能となりました。以前は2泊3日で行われていた遠征ツアーも、現在では1泊2日となっています。

## 地域みんなが楽しめる交流に

長尾と多井畑のサッカーチームの交流は、親子2代、OBを含めて、それぞれの地域の良さを活かし、参加する人みんなが楽しむことができる交流となっています。参加者の手づくりで、無理をしない。それが、長尾・多井畑流の海を渡る交流です。

## 広域ブロックが自立的に発展するためには、 近畿と四国の広域ブロック間連携が大切です。



国土形成計画の全国計画は平成19年中頃に閣議決定され、広域地方計画は全国計画の閣議決定後に計画づくりが開始され、おおむね1年後に決定されることになっています。近畿と四国をつなぐ紀淡海峡交流圏における交流・連携の推進は、国土形成計画がめざす新しい国土像の実現に貢献します。

紀淡海峡交流会議は、近畿と四国の広域ブロックが自立的に発展するためには、各広域ブロックが地域特性を活かしながら自立的発展に向けた独自の取り組みを進めるとともに、近畿と四国の広域ブロック間連携を一層推進し、交流をさらに進めることが大切であると考えています。

---

### 紀淡海峡ルートを推進する 紀淡海峡交流会議

---

大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、高知県、  
(社)関西経済連合会、四国経済連合会、大阪府商工会議所連合会、  
兵庫県商工会議所連合会、奈良県商工会議所連合会、和歌山県商工会議所連合会、  
徳島県商工会議所連合会、香川県商工会議所連合会、高知県商工会議所連合会

---

紀淡海峡交流会議事務局：和歌山県企画部計画局総合交通政策課

〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1

TEL(073)441-2344 FAX(073)441-2340 2007.4